

# ニッセイ緑の財団復興支援シンポジウム

東北の地から(カ)全国に発信する森と子ども達とのいい関係

## 復興支援事業の発表

特定非営利活動法人

宮城県森林インストラクター協会

木村 健太郎

# 復興支援事業の発表

- I 団体紹介
- II 独自の復興支援事業
- III 学校林への期待と取り組み
- IV 企業のCSR事業への期待
- V まとめ(復興に臨む姿勢)



# I 団体紹介

特定非営利活動法人

宮城県森林インストラクター協会

## 1 宮城県森林インストラクター制度（宮城県）

- ①平成10年に開始。現在14期生が受講中。
- ②毎年ボランティアを志す30名（14期生から40名）程度が募集・選抜され、年18日間の講座を受講し試験や面接を経て認定。
- ③講座内容は自然観察・林業技術のほかネイチャークラフトやキャンプ・気象・安全管理等広範囲に渡る。
- ④現在約400名が県知事から認定を受けて活躍中。
- ⑤事業実施団体としてNPO法人宮城県森林インストラクター協会を設立し、現在会員数260名が活躍中。

# I 団体紹介

## 2 宮城県森林インストラクター協会の設立と事業展開

- ①平成11年、県知事から認定を受けた31名で任意団体を設立。
- ②平成12年11月、(当時会員63名)緑の募金事業で初の大規模主催事業「ふれあいどんぐりの森」造成事業を実施。県民263人が参加して1005本を植樹。
- ③その後、県民の森を中心に森林・林業の普及・啓発活動を展開。
- ④平成15年1月にNPO法人化。当時会員数143名。助成事業による独自の森づくり活動や企業等からの業務受託を開始。
- ⑤平成18年度 森林公園管理業務を開始。宮城県県民の森指定管理者に。わたしたちの森づくり事業で宮城県と協定を結び、5.7haの整備を開始。
- ⑥現在会員数260名。森林公園の管理や企業の森づくり活動のコーディネート森役を務めながら森林ボランティアの養成や学校の総合学習支援等を幅広く実施。

# I 団体紹介

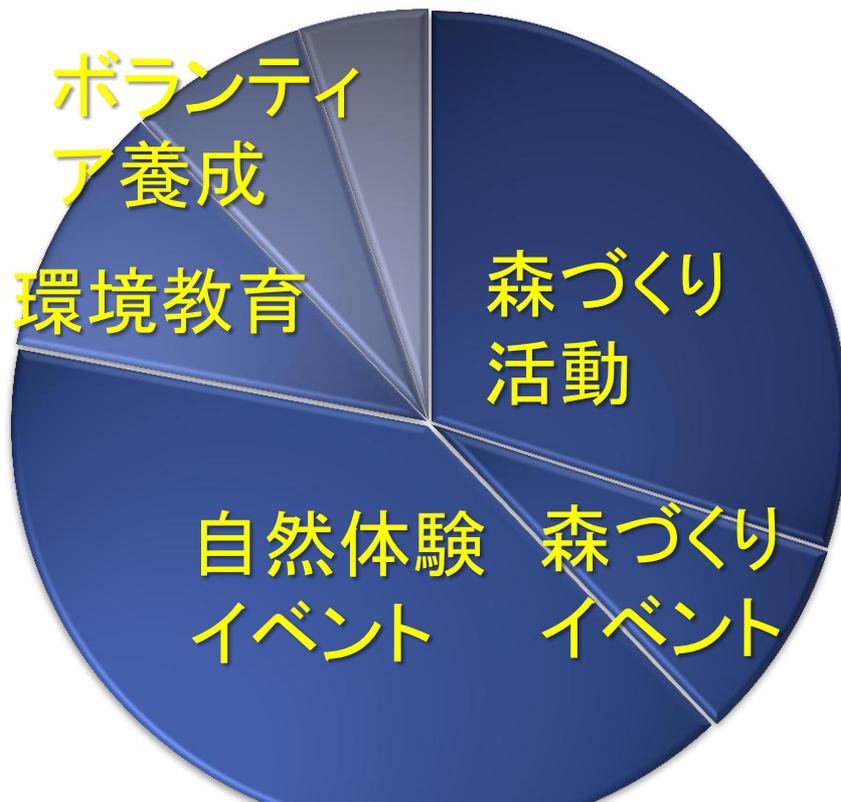
## 3 事業の実施状況

(1) 年間の活動総数 : 400件~500件

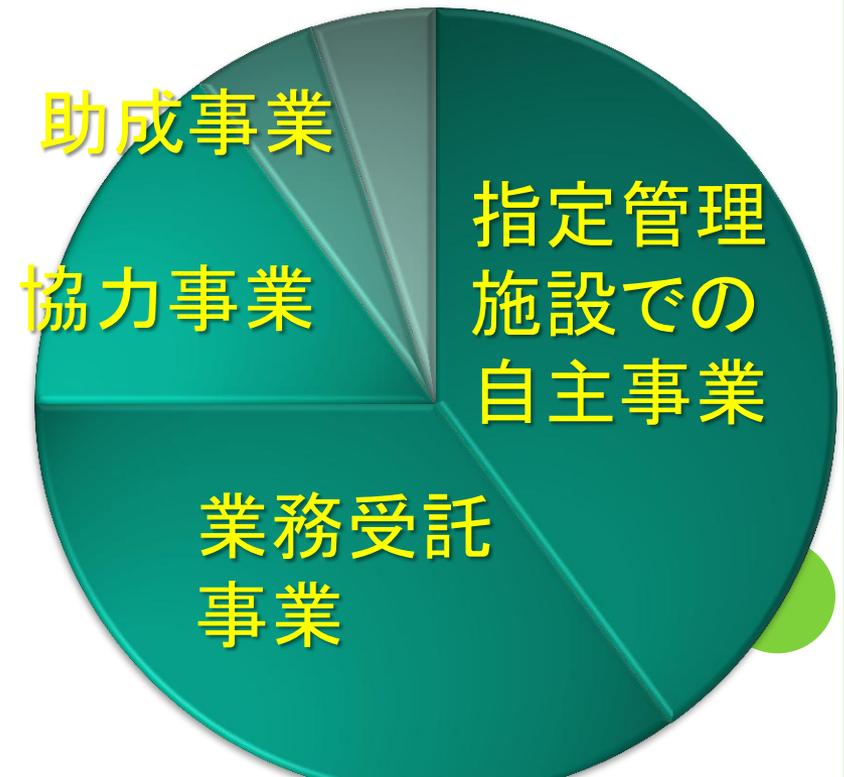
(2) 活動に参加する会員数(年間のべ) : 約3,000人

(3) 関係する一般の方々(年間のべ) : 約10,000人

(4) 割合【活動種別】



【事業種別】



# I 団体紹介

## 4 現在取り組んでいる主な事業と活動フィールド

- (1) イベント実施等による普及・啓発事業
- (2) 講師派遣事業・協力事業
- (3) 企業の森づくり活動等のコーディネート事業
- (4) 自主的な森づくり活動・会員の研修活動
- (5) 森林ボランティア養成事業
- (6) 森林公園の管理事業(指定管理者制度)

# (1) イベント実施等による普及・啓発事業



## 『もりもり教室』

親子の健全な関係を構築  
する自然体験

## 『県民の森クリーンアップ 大作戦』 環境美化意識の向上



## (2) 講師派遣事業・協力事業

依頼に応じて適合する会員を派遣する



### 『野外活動』

学校の総合学習・自然教育等への講師派遣

『イベント等へのブース出展』  
ネイチャークラフト体験等による自然教育事業



### (3) 企業の森づくり活動等のコーディネート事業

計画から森づくりの指導・整備・イベント運営まで



#### 『森づくり活動』

遊歩道の整備活動など。  
MISAWAオーナーの森  
宮城

#### 『キノコ植菌活動』

楽しい森づくり。宮城県E  
NEOSの森。



### (3) 企業の森づくり活動等のコーディネート事業

#### 現在一緒に森づくりに取り組んでいる主な企業・団体

- JX日鉱日石エネルギー株式会社(宮城県ENEOSの森)
- 東北ミサワホーム株式会社(MISAWAオーナーの森宮城)
- 東北発電工業株式会社(とうはつの森)
- 株式会社東日本放送(ぐりりの森)
- 株式会社NTTドコモ(ドコモ大和松倉の森)
- イオングループ(イオンの森)
- ニッセイ緑の財団(ニッセイ利府の森)
- トヨタ紡織東北株式会社(トヨタ紡織グループ『環境の森』大衡)
- 東芝の森(株式会社東芝)
- 仙台コカ・コーラボトリング株式会社(うるおいの森)
- 株式会社鈴木工業(鈴木工業(株)みんなの森)
- 住友生命相互会社(スミセイの森 宮城) 他

## (4) 自主的な森づくり活動・会員の研修活動



『植樹実施場所の育林活動』  
植えたからには育つまで責任を持つ育林活動。

『荒廃した里山再生』  
県有林を借りて自主的な  
整備活動



## (5) 森林ボランティア養成事業



『森林インストラクター養成講座』  
宮城県の養成講座を業務受託～企画・運営し講師を務める。



『サポーター養成講座』  
宮城県のみやぎ自然環境  
サポーター養成講座を運  
営し森林ボランティアを育  
成

## (6) 学校林づくり・学校の総合的な学習への協力

### (1) 環境教育林・自然体験林の整備

隣接した(近隣の)林を、児童が安全に遊べるレベルまで整備し、以後、総合的な学習や理科学習の中で活用し、児童自らの手による森づくりも行う。

### (2) 防災林の整備

台風・津波等の際の緊急避難林であると同時に、燃料や食糧、生活用水等の供給機能も兼ね備える。

(3) 校庭を活用して樹木や草花を育て、緑化思想の啓発から森林保全思想を育む。



## (7) 森林公園の管理事業(指定管理者制度)

### ①平成18年度～

宮城県県民の森(481ha 利府町 仙台市 富谷町)

### ②平成20年度～

宮城県こもれびの森森林科学館(2ha 栗原市花山)

### ③平成21年度～

蔵王野鳥の森自然観察センターことりはうす(蔵王町)

指定管理事業(施設管理等)で活動拠点を  
得て、ボランティアの基地づくり



# 森づくりに対する基本姿勢について



荒廃して立ち入れなくなった林(森)を



自然体験を楽しめるレベルまで整備して、イベントを実施(一般の方々に利用してもらおう)



# 森づくりに対する基本姿勢について

(1) 1団体のみでは限りがあるので、行政・企業・他団体と密接に連携し、できるだけ少ない労力で大きな啓発効果を狙う。

(2) レクリエーション林として未来の方々に活用され、維持管理を続けてもらえるフィールドを選んで整備する。

(3) 活動を持続可能なものにするため、常に若手の育成と事務費の確保を心がける。

(4) 特定の事務局への負担集中をなくすため、補助的な有償ボランティアを育成する。

(5) 植樹は必要最低限とし、無理にあまり必要のない植樹を行う自治体や企業には協力しない。

# 森づくりに対する基本姿勢について

講習を受け、経験と実力を備えたたくさんのボランティアスタッフが毎年加勢



会の運営に長けた経験豊富な事務局スタッフ



やる気満々で実力の高い協力ボランティア陣



豊富な活動フィールドと豊富な道具・資材



行政・企業・支援団体等との持ちつ持たれつの良い関係



無理せずに、いつも仲良く楽しくたくさんの社会貢献

# 森づくりに対する基本姿勢について

個人の気持ちを大切にして  
みんな仲よく強力な組織力を発揮



「楽しさ」と「たくさんの人に森で楽しんで  
もらう喜び」に支えられて

## Ⅱ 独自の復興支援事業

### 1、三井物産環境基金復興助成により

#### 「里山生活を後世につなぐ環境と心の復興事業」

(1)環境教育防災林づくり

(2)生活用水ネットワークの構築

(3)被災地での緑化事業

#### ○事業の基本的な考え方

被災地の経験を活かして、全国のモデルとなる多機能防災林を整備し、地域で発展的な継続が見込める段階まで世話をする。

特に、災害に強かった里山と自然人に着目し、環境教育や自然体験に里山生活や自然暮らしや減災のさまざまな知恵を盛り込んでいく。

## ◆環境教育防災林の考え方

復興・減災事業として防災林を整備し、同時に末永い維持管理システムを地域に構築するため、環境教育・自然体験機能等、普段から地域が有効に活用できるさまざまな要素(価値)を付加していく。

### 【機能として備える主な要素】

#### ○避難機能

- ・安全な歩道
- ・案内版
- ・広場(テントサイト)
- ・看板
- ・展望台
- ・即席トイレ
- ・かまど(安全に火を焚ける場所)
- ・テント

#### ○貯蔵供給基地

- ・井戸
- ・湧水
- ・畑
- ・山菜キノコ等
- ・竹(器・箸・串等)
- ・タンク
- ・薪炭
- ・貯蔵庫
- ・果樹
- ・ヒノキ(着火・腐敗防止等)
- ・お茶

#### ○環境教育・レクリエーション機能

- ・樹名板
- ・さまざまな生き物のビオトープ
- ・豊富な植生
- ・風景
- ・散策道
- ・遊具
- ・ベンチ
- ・巣箱
- ・ウォークラリー機能
- 等

## ◆環境教育防災林の展開

当面、石巻市立橋浦小学校で実施。他にも着手予定。

### 【「環境教育防災林」で起りうる問題点】

#### ○森林整備上の問題点

- ①法的 保安林や文化財指定、公園等の条例により手がつけられない。
- ②所有者が不明で許可が取り付けられない。または所有者の許可が得られない。
- ③毎年最低限の維持管理整備を続けていかないと、森はすぐに荒廃してしまうので、地域に整備活動を続けてくれるチームが育つ見込みがないと、着手しにくい。

#### ○その他の問題点

学校の積極的な取り組みが非常に重要な要素であるが、人事異動等により、活動が一気に停滞する危険性がある。

## ◆環境教育防災林の展開

「環境教育防災林」を全国に普及し、減災や森林環境教育に役立ててもらうために、モデル林の説明会や、普及・啓発、意見交換のためのワークショップの開催が必要である。



モデル林を交通の便が良い場所に設置し、全国から視察に来てくれた際にいつでも案内できる状態にしておきたい。



**条件を整えて、いずれ行政や助成財団・企業等と連携しながら進めていきたい。**



## 2、災害に負けない強い「人」づくり

さまざまな主体との連携・協働により、自然体験や森づくりを通して、逞しい子ども(家族)を育てる。

○学校の総合的な学習を活用、時に学校林での体験授業  
例) 仙台市立松陵西小学校 けやき山活動

○市町村との協働

例) 富谷町 「西コミ自然ふれあい学校」

○企業・財団等との協働

例) ニッセイ緑の財団との協働

親子DE森林教室in“ニッセイ利府の森”

例) イオングループ

イオンチアーズクラブのイオンの森づくり

○主催による事業

例) もりもり教室(県民の森青少年の森)

こもれびの森ウッドランドクラブ(花山 こもれびの森)



# 仙台市立松陵西小学校 けやき山



構想づくりから整備までを見童自ら行う  
毎年引き継がれていく森づくり活動  
活動資金をニッセイ緑の財団から助成



# 富谷町 西コミ自然ふれあい学校



親子でワイルドな里山自然体験と森づくり  
里地里山の有効活用と原体験・町民交流



# 親子DE森林教室in“ニッセイ利府の森”



被災地から親子を招待して、自然体験を通じて  
心の復興に寄与する  
充実したスタッフとバリエーションに富んだ活動



# イオンチアーズクラブの イオンの森づくり



子ども達により自主的な森づくり活動  
子ども達の思いを実現するバックアップ体制



## 主催事業（もりもり教室 県民の森）



安全なフィールドと充実したスタッフ陣を武器に  
幼児からの原体験としての里山・自然体験を提供



## ◆大震災の教訓

○自然災害を力で完全に押さえ込むことはできない

土木・建築の進歩もコンピューターも限界がある。

○電気・ガス・化石燃料等、特定のエネルギーに頼っている生活は、便利だが無くなった時にとても恐い。

○便利で贅沢な暮らしを追求した結果、大変な「負の遺産」を抱え込んでしまった。

○宮城県沖地震以降続けてきた防災教育・防災行政は、大きく見直さなければならない。

**大切なことは**



里山・里海生活に慣れている東北人は、多くの人が何とか耐え忍んだ。

○普段から敢えて不便な生活を体験し、ライフラインの寸断で慌てない強さ・自信を身に着けておくこと。

○一人一人が、日本ではどこにでもある「自然素材」を上手に活用する知恵を身につけておくこと。

○辛いときに助け合い励まし合える仲間がいること。

要するに、人が強くなること

## ◆大震災の教訓 Part II

### ○福島第一原発の重大事故で学んだこと

行政やマスコミから伝わってくる情報が全て正しいとは言えないということ 情報を操作される危険性  
コンピューターのシミュレーションは鵜呑みにできない



大切な  
こと

1人1人が何が正しいのかきちんと考えられるようになること  
情報に惑わされずに自分で判断すること

環境教育とは、環境に対する感覚・感性を鋭敏にすること  
環境教育の入り口は自然でのさまざまな体験



# Ⅲ 学校林への期待と取り組み



# Ⅲ 学校林への期待と取り組み

## 1 学校林の概念

従来は、戦後の拡大造林を受けてスギ・ヒノキ・アカマツなどを植林し、財産林(生産林)を造成した。

収益を上げると同時に校舎の増築や改築にも利用できるように



現代は、むしろ環境教育林・自然体験林としてのイメージが強くなってきている。

~~学校林~~



学校の森



## 2 学校の森と森林教育の現状

県内小中学校のアンケートの結果、学校の森を所有している、または活用している学校は極めて少ないことが判明。

森林の教育的機能や自然体験の重要性を認識してはいるものの、さまざまな障害があつて学校の森を持つまでには至らないという現状



学校の森をつくることや、学校で積極的に自然体験に取り組むことは、それほど難しいことではない

【キーワード】

学校の目的意識・地域の協力・コーディネーター



### 3 現代の生活や学校教育において感じること

○常に便利な道具を使い、分からないことはインターネットなどですぐに調べられる生活環境

→ 何でも与えられる便利さ  
自分で物事を考え、生み出すことができなくなる

○学校に子どもが閉じ込められてしまっている閉塞感を感じてしまう学校が少なくない

→ 自由と自己主張の欠如による精神の不安定化  
心を解放しなければストレスが蓄積される

○テレビ・ゲーム・インターネット等への依存、シュミレーション中心のヴァーチャル教育等によって、ヴァーチャルリアリティ(仮想現実)の世界に支配される傾向がある。

→ 身の周りにあるものを五感で感知し、体全体で感じる事ができる感性が鈍る



## 4 森林における体験型活動の教育的機能

(1) 学校や家庭での評価(勉強ができるできない・運動神経が良い悪い等)がリセットされる

⇒ 普段の生活で見出せなかった自分自身の価値に気づく 自己発見・自己表現・自己主張に繋がり、社会生活に必要なコミュニケーション力が醸成される

(2) 教室での共同生活における不満・ストレスの解消に繋がる

⇒ 他人の粗探しやケンカをしていたのが、協力し頼りあうようになり、互いを認め合うようになる

(3) 未知の生き物やたくさんの植物に触れ、興味・関心・感動が生まれる

⇒ 生きていく上で必要な感性が磨かれる

(4) 連鎖的な活動を行うことにより、縦横無尽な拡がりを見せ、社会的な価値が増えていく。

## 5 学校の森 活動の意義と成功の秘訣

### (1) 自然の中ではみんな平等である

○自然体験では、先生役は自然。参加者は教師も児童も指導員もみんな生徒である。

ただし、自然や森林の中で聞こえてくるたくさんの言葉や描かれているたくさんの文字(自然語)を通訳するインタープリター役が必要。



**教える者 と 教えられる者 だけの関係ではなく、「人間同士が本来持つべき“教えあい、助け合い、互いを尊重する”という良い関係」ができる。**

これは、企業や団体の活動でも同じである。



## 5 学校の森 活動の意義と成功の秘訣

(2)縦横無尽な拡がりと継続性を持たせるためには連鎖とストーリー性が必要である。

継続的に活動していくと、先輩が創った森をさらに楽しく良い森にしていくのだという「森に対する思いの連鎖」が起きる

「学校の森」活動は、未来へずっと引き継がれるストーリー性に溢れた「総合的な学習」を続けることができ、自ずと地域を巻き込み、無限の拡がりを見せていく。

### 最後に

学校の森は、学校に隣接する必要はありません。森の形を成していない法面や空き地や公園でも大丈夫です。日本の湿潤な気候からくる植生の豊富さを有効活用すれば、フィールドをつくることはそれほど難しいことではありません。

また、校庭や学校周辺のちょっとしたスペースでも、工夫すれば素晴らしい自然観察フィールドをつくることができます。

# IV 企業のCSR活動への期待

## 1 企業の森の紹介

- 1 ニッセイ利府の森（ニッセイ緑の財団）
- 2 宮城県ENEOSの森（JX日鉱日石エネルギー㈱）
- 3 MISAWAオーナーの森 宮城（東北ミサワホーム㈱）
- 4 とうはつの森（東北発電工業㈱）
- 5 ぐりりの森（㈱東日本放送）
- 6 イオンの森（イオングループ4社）
- 7 ドコモ大和松倉の森（㈱NTTドコモ東北）
- 8 東芝の森（㈱東芝）



# ニッセイ利府の森（利府町 5.0ha）

県 わたしたちの森づくり事業制度

ニッセイ緑の財団

未立木地の整備・清掃⇒植樹

荒廃林の整備⇒被災地の支援NPOとの協働  
により、被災地の子ども達を招待しての自然体  
験イベントを継続的に実施

# 宮城県ENEOSの森（利府町 5.7ha）

県 わたしたちの森づくり事業制度

JX日鉱日石エネルギー(株)

荒廃未立木地の整備⇒植樹(目的林)⇒維持管理

四季彩の森   みのりのもり   おおむらさきの森  
カエデの森   いろはの森   きのこの森   他

# MISAWAオーナーの森（利府町 5.5ha）

県 わたしたちの森づくり事業制度  
東北ミサワホーム(株)



里山放置林(40年)の整備⇒美しい広葉樹林再生  
⇒散策道整備⇒県民の散策フィールドへ

# とうはつの森 (利府町 1.6ha)

県 わたしたちの森づくり事業制度

東北発電工業(株)

とうはつの森  
開所記念

とうはつの森  
東北発電工業株式会社

荒廃未立木地の整備⇒植樹(目的林)⇒維持管理  
住宅や県民の森に近い立地を生かして、快適なレ  
クリエーションフィールド

# ぐりりの森 (利府町 4.3ha)

県 わたしたちの森づくり事業制度

(株)東日本放送

荒廃未立木地の整備・植樹(目的林)⇒維持管理  
イベント実施とテレビ放映による普及・啓発事業

# イオンの森（利府町 5.98ha）

県 みやぎの里山林協働再生支援事業  
イオングループ4社



里山放置林(40年)の整備⇒美しい広葉樹林再生  
⇒散策道整備⇒県民の散策フィールドと子どもたちの  
自然体験フィールドへ

# ドコモ大和松倉の森 (大和町 2.83ha)

国 法人の森林制度

(株)NTTドコモ東北支社

ヒノキ林をレクリエーションフィールド化

# 東芝の森（大衡村 20ha）

県 わたしたちの森づくり事業制度

株式会社 東芝

湿地  
ビオトープ  
東芝の森

植林 ⇒ 維持管理  
森づくりを通じての社員交流 家族交流  
人づくり

# 企業の森の動向

企業による森づくり活動は、資金の提供や、植林を中心とした活動から、植林に拘らない里山再生活動やレクリエーション活動に幅を広げ多様化しつつある。

このため、制度の緩和や、経験豊富なコーディネーター(森林組合・NPOによるソーシャルビジネス・森づくりコミッション等)による支援が重要になってきた。

また、震災を受けて、企業による環境CSRの動きがさらに多様化する傾向にあり、森づくりコーディネーターの役割がどんどん膨れ上がってきている。

# 企業の森の価値

企業の森づくりは、民間ボランティアによる森づくり活動に比べ、規模も大きく、基盤がしっかりとした活動が多いことが特徴。

- ①事業形態が多様な主体による「協働」に発展することが多く、それぞれの森づくり活動機会の創出と、スキルアップにも繋がる。
- ②組織力と広域性があり、多くの方々が関係することによって啓発効果が高い。
- ③事業自体がある程度広報・宣伝を狙ったものであることから、継続性があり、社会一般への普及効果が高い。
- ④一般親子等が参加できるイベントを実施する企業が多く、安全で楽しい自然体験の機会創出に繋がる。
- ⑤継続的な活動を行うことにより、レクリエーション林としての里山再生に繋がる可能性がある。

# 企業の森とコーディネーターの役割

子どもたちがカブトムシ採りをしたり、どんぐり拾いをしたり、小川で生き物採りをしたりする身近なフィールドが少なくなってきた中、企業の森づくり活動による身近な里山再生活動に期待と注目が集まり始めており、森林インストラクターなどのコーディネーターの役割も大きくなってきている。

企業とコーディネーターは、従来の林業常識や森林管理マニュアルを基本としながらも、常識に捉われず、新しい森づくりの形態を模索・実行し、パイオニア的な存在としてモデルを残していくことが肝心である。